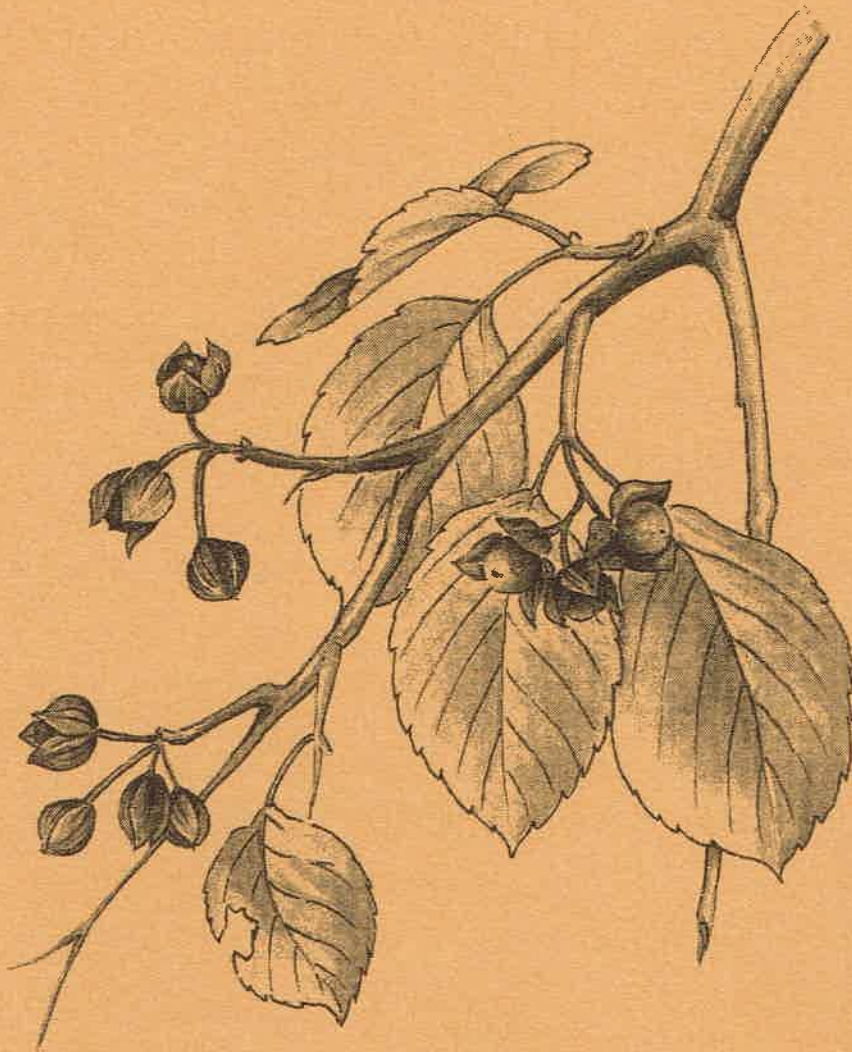


エゾマツ



No.58

2001. 10. 15

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目次

1. 巻頭 言 ボランティア活動の飛躍を期待して……会長 川端 功治…… (1)
2. 7月以降の活動…… (3)
3. 会員の声・新入会員の声…… (4)
4. 研修部第1回宿泊研修 IN 支笏湖……研修部長 小林英世…… (7)
5. 宿泊研修に参加して……佐々木幸夫…… (8)
6. 恋い焦がれて、出逢いは一瞬……岡村敏夫…… (10)
7. 江別第二小学校3年生を引率して……研修部長 小林英世…… (12)
8. キーワード…… (13)
9. 横目で見ると北イタリア美術館巡り (その三) ……佐藤健一…… (14)
10. クマゲラー斉調査…… (18)
11. 山への想い 大平山 (オオヒラヤマ) ……川端功治…… (22)
12. 観察会研修会情報…… (28)
13. 編集後記…… (29)

ボランティア活動の飛躍を期待して

会長 川端 功治

会員各位にはそれぞれに考え方や構想があるとおもいますが、差し当たって必要であるのは観察会に活躍するレンジャーの為に、豊富な情報と知識を提供して、元気一杯の活力を期待する事が先決であるとの結論に達し、総会にそのあらましを諮り、役員会の決議を経て実効のある研修会を開催する事になりました。

差し当たり財政面の工面も必要でありましたが、民間団体でボランティア活動に理解のある組織から補助金を受けられるチャンスに恵まれて、指導経験の豊かな指導者を迎え、数回に渡って研修会を開催することができました。

似た植物の見分け方をお願いした講師は、日本が誇る植物写真家、梅沢俊氏の片腕となって数多くの名著のイラストを担当した、野村道子女史で、仕事にはキビシイが温顔の絶えない、気立て優しき指導振りは、正に評判どおりでした。

講演に先立って「同じことを何回も繰り返して質問を受けても怒らないで下さい」とお願いしたら「お任せ下さい」とあっさり引き受けてくれ、無事全日程を終え、同女史の名著「絵解き検索表・春・夏・秋」の3冊はどうやら使いこなせるようになったかと思いますが、やや自信なげな受講生もいましたので、都合で参加出来なかった会員も加えて、再度計画実施すべき必要を感じました。

飛んでいる蝶やトンボ。とにかく動き回るものは人目を惹きます。

観察路で目に付く昆虫類の名前を知れば、その生態を理解する手掛かりになります。想像もつかない位の、おびただしい数の生き物達の食い合い。それは食物連鎖のキビシイ凄惨な世界ですが、時には共存共栄の微笑ましい光景も見られます。

北海道昆虫同好会の幹部（内科医）に相談したところ「蝶やトンボを殺さないで、名前だけを知りたい」と言う条件は学問の研究者にとって理解しかねる。例えば、一

万匹のなかから一匹、研究の為に犠牲になって戴くと言う考え方に成れないか。しかし、人の心情としては理解できるので、心配りの出来る人を紹介します。」と元JR防雪林管理者で菌類学にも詳しい田城講師を推薦して呉れましたので、計画どおり、研修会を実施することができました。

楽しく走り回る好好爺の先生のムードに引き込まれて、虫と遊んでしまった反省もありましたが、子供達と仲良くなる原点は遊びを共にする喜びにあると思われます。そのお陰で、台湾の生物学者の一行にマイマイカブリの生態を説明したところ、大変に喜ばれ、田代先生から伝授された講義の初のお手柄とも言うべきところでしようか。それにしてもあまりにも大き過ぎる生き物の世界であることを痛感させられたことが最高の収穫でした。今後この巨大な生物界の一部でも理解して、観察会に役立てる手法を検討したいと考えております。

嬉しいことが起こりました。どうか敬遠されがちなシダ類の研修を顧問の佐々木幸夫氏がプレゼントして呉れました。初回は他団体との混合の為、一部の志願者に限られましたが、この受講者とチーフの佐々木氏が講師団を編成し、研修会を開催する運びとなり、資料等を含め同氏に多大な負担を掛け、厚く感謝を申し上げる次第です。今後、この講師諸兄は常時質疑に応じますので宜しく鞭撻願います。

以上の締めくくりとなる、支笏湖宿泊研修は、現地研修は勿論の事、この半年間の諸研修の反省の場となることも期待されております。越し方を振り返り、きたるべき新年度事業計画に着手するタイミングでもあります。

終始好ましい討議が行われ、これに加えて都合で参加出来なかった、会友の諸兄からも積極的にご希望、ご意見をお寄せ戴きたいと念願しております。

ボランティア活動をより活発に、より楽しくする為に如何にあるべきか会友諸兄のご指導ご鞭撻を重ねてお願いする次第であります。

秋の日だまりの中で

穏やかな陽射しを受け、森の小径の落ち葉を踏みながら歩を進めると、香ばしい匂いがしてきます。カツラの落ち葉から発する匂いです。ハウチワカエデやヤマモミジの赤、イタヤカエデの黄、ミズナラの茶など、森は冬の前の一時の華やかさを見せています。私たちの活動も秋の恵みを受けながら進めていきましょう。また、会員の皆さんから全道各地の秋の情報を発信していただくと広報紙面も楽しくなりますので、情報を広報部にお寄せください。

7月以降の活動

- 7月1日(日) ・ニセコ神仙沼自然観察会(ニセコ神仙沼駐車場)
(下見 6月30日 13:00 ~ 研修 ベンションふきのとう)
- 7月15日(日) ・夏の森の観察会(野幌森林公園大沢口)
(下見と研修会 7月14日 講師 田城敏雄氏)
- 7月29日(日) ・真駒内自然観察会(地下鉄真駒内駅前集合)
(下見 7月28日)
- 8月9日(木) ・8月の森の観察会(野幌森林公園開拓記念館前)
(下見と研修会 8月2日 講師 田城敏雄氏)
- 8月26日(日) ・利根別自然観察会(利根別公園大正池駐車場)
(下見 8月25日)
- 9月9日(日) ・野幌自然観察会の集い(野幌森林公園 森の教室前)
(下見と研修会 9月8日 講師 田城敏雄氏)
- 9月22日(土) ~ 23日(日) ・宿泊研修会(支笏湖周辺)
(宿泊場所 支笏湖観光ホテル)
- 9月28日(金) ・役員会(環境サポートセンター)
- 10月14日(日) ・秋野森の観察会(野幌森林公園大沢口)
(下見 10月13日)

会員の声

伊達市 木村 益巳

伊達には少しですが、カタクリの群落があります。しかし、筐に負けたり採られたりして減少しているようです。カタクリを増やそうと、一昨年、種を数十粒まいてみました。

今春、小さいカタクリの葉がでていたのを発見し、これに力を得て、今年は、数百粒の種を雑木林にまきました。

雑木林の林床で咲くカタクリなどの春植物や虫や野鳥や小動物などがすむ、カタクリの里ができないだろうか？ 課題はたくさんありますが、今、夢の実現の第一歩として、カタクリの種まきをしています。

大切にしたい公共施設

新冠町 杉田 清

たくさんの人に、気持ちよく利用してほしいと思い植えた鉢花を鉢ごとひっくり返し、街路灯に石をぶつけて割ってしまう、ゴミ箱のそばに散らかしたゴミを見ると、それを植えた人、清掃をしている人の心を踏みにじった行為を許すことはできない。もし、それが子供であっても、良いことと悪いことの判断はできるはず。なぜなら、その行為は夜間に起きているからである。

世の中いろんなことが起きているが、人の心は善であることを私は信じたい。

西興部村 阿部 愛治

ペーパー会員を任じていましたが、今春の総会に参加して、活動の内容を知ることができました。文字どおりボランティアでの、幅広い取り組みに敬意を表します。

当地は人よりも熊にあう機会が多い過疎地？……なのに自然ウォッチング的なイベントがない。皆さんの協力を得て、計画したいので、どなたか？ サポートしてください。

9月16日。「洋歯植物」の観察会に参加して楽しい一日を過ごした。

シダたちは全体の形状に始まり葉型、大きさ、内部構造、胞子のつけかたなど分化・進化させていた。その差異性に驚かされた。仲間ながら方言を話しているようでもあった。

花も種子もつけず胞子で子孫を残す、その生の戦略にも魅了された。その胞子であるが葉の裏側に規則的配列を持つものから、それを分離させているものまで様々であった。サカゲイノデのように左右の葉が非対称であるのもファジーな感じであった。



新 入 会 員

石狩市 菊池 清美

私は、今年会員になった、石狩市の菊池です。

石狩浜はまなすの丘公園を紹介いたします。春はスミレ。夏はハマナスと共にノハナショウブ、ハマニガナの美しい小さな黄色花。秋はコガネギク、ユウゼンギクと沢山の花が咲きます。

石狩の浜は、やはり、ハマナスが一番美しいです。どうか石狩川の河口に広がる灯台の美しい町。石狩での自然観察会もよろしくお願い致します。

今は、ハマナスの実が朱色に色ずき、完熟した実と遅咲きの花が、あたりに甘酸っぱい香りを放っています。もうすぐアキグミも赤実をいっぱいつけます。

皆さんまずはゴミを拾いませよ！

富良野市 中山 和恵

四季折々の輝きを持つ、空、森、etc …。

素朴な瞳で、生命への原点を思い起こしてくれる野生動物たち。さりげなく可憐に、けれど逞しく咲く路傍の草花等々、次の世代にも存在してほしい願っています。微力なこの私の力、何かの役に立つといいな…！

網走の研修で川端会長から“自己申請！？”していただいた火ばさみ、軍手、そして、“ゴミ拾いの精神”を初心の宝物として、一日も早くボランティア レンジャーとして活動したいと思います。

皆さん、よろしく願いいたします。(^_^) / ♡♡

網走市 佐久間 麻奈美

はじめまして。地元網走で行われた研修会の後、「はて？ 知識も技術もない自分が、一人で何ができるだろう？」と考え、小清水原生花園のゴミ拾いレンジャーから始めることにしました。国道沿いを花を見ながらゴミ拾いしていると、一時間ほどで45リットルのゴミ袋がいっぱいになります。目立つのは、空きカン、タバコの空き箱、コンビニ弁当の空、ティッシュです。その一方、ゴミを拾って持ってきてくれた人がいたり、「ごくろうさま！」と、声をかけてくれる自転車の人達がいる、うれしくなりました。



研修部第1回宿泊研修 I N 支笏湖

研修部長 小林 英世

昨年より懸案であった、宿泊研修を今回支笏湖で開催することが出来ました。第1回の研修部会議を6月3日の観察会の後に開催し、場所、講師、時期などを検討し、当初場所は北湯沢と考えていましたが、宴会場が既に満杯という状況なので、場所を講師の佐々木氏がパークボランティアを務める、支笏湖に変更し開催することにしました。9月9日の第2回研修部会議で、車等の手配、ホテルの地図の手配などを決め本番へ備えました。

前日の気温の低下で本番の天気が気になりましたが、なかなかの好転に恵まれ、午後1時支笏湖観光ホテル湖水荘に集合、講師以下18名のレンジャーが参加し第1回の宿泊研修を行う運びとなりました。エゾノコンギクとユウゼンギクの違い、クワの萌芽の話し、ウドの大木の話し、佐々木講師の蘊蓄のある話しに盛り上がり、4時までの時間をオーバーするといったレンジャー諸氏の熱心さ、ホテルに戻る頃にはもうへとへとといった感じでした。ホテルに戻り温泉で疲れを癒しながらもまだまだ続く観察、露天風呂に入りながらもバードウォッチング、なんと熱心な、

6時より懇親会、普段観察会では顔を合わせてはいるが、膝を交えて話をする事がなかなかないので話しは弾み、2次会へと突入、白老の森永さんも交えて宴も盛り上がり、川端会長の歌も繰り出す大変有意義な懇親会となりました。翌日の早朝のバードウォッチングに備え就寝。

翌日は6時起床、6時半よりバードウォッチング、普段なかなか見る事のないイカルの集団、休暇村の餌台に集まっていました。空を見上げればカケスの集団、これも普段なかなか見ることが出来ないものでした。また、千歳川に行けばカワウ、バードウォッチングも大盛況のうちに終り、第1回の宿泊研修の締め括りにふさわしいものとなったと思っています。ホテルに戻り朝食、またの再会をそれぞれに確認し写真を撮り、それぞれの家路へとつきました。

第1回の宿泊研修を終えいろいろ不備な点などあり、今後の課題として残ったものもありましたので、研修部で検討し第2回えとつなげていければいいなと思っています。講師の佐々木さんありがとうございました、そして、参加されたレンジャーの皆さんご苦労様でした。

「宿泊研修会に参加して」

札幌市厚別区 佐々木 幸 夫

とにかく楽しい2日間でした。前日までの天気が嘘のような好天です。13:30 から今晚宿泊する支笏湖観光ホテルを出発し、今日の研修の一つであります自然観察会のフィールド「支笏湖野鳥の森」に向かいます。

その途中、目に触れる植物についても話題にしましたが、この時季に開花中のものはエゾノコンギク・ユウゼンギク(栽培種はシノノメギク)・ミヤマセンキュウ・エゾトリカブト・アキノキリンソウ(なかにはミヤマアキノキリンソウと思われるものもありましたが)・セイヨウタンポポなどのほかに、時期遅れのオトコエシ・カワミドリ・ゲンノショウコ・シロツメクサ・ムラサキツメクサなどでした。

自然観察会の観察路は、キムンモラップ山(標高478mで支笏火山発生以前の古い山の中腹=支笏火山の火口壁でもあります。僅か標高380m前後で火山壁を自分の足で踏みしめ、植物の数々を観察できる体験に一種のロマンがあります。その観察路は上下2本あり、上の観察路は結構な登りで一寸した登山感覚を味わうことができますが、路幅は人一人通れる位の狭さです。

一方下は、比較的路幅もありその上傾斜も緩く、なかには平坦もあるなど足の弱い参加者には適当なコースです。

そんな地形や、生成された年代を想定してどのように現在の植生になり、今後どのような遷移を迎えるのか考えてくれたのでしょうか。数百種もある植物の中から、主なものや珍しいもの約80種に荷札(種名(和名)を書いたもの)を付けたのですが、それが単に種名を知るだけでは講師の意図に反します。

さして長い道のりではありませんが、先程も触れましたように起伏に富んだ路線ですから、慣れない参加者には苦痛になると思います。そんな観察路で如何に参加者に楽しんでもらえるかが大切なことで、案内人としての配慮が必要になります。

とにかく、宿泊場所に戻ったのは定刻に30分遅れでした。始まる前に定刻に遅れない、時と場合によっては定刻以前に、終わらせたいので協力をお願いしたのですが、何が原因で遅れたか計画・企画に問題があったことに間違いがありません。この点を今後の自然観察会にどう活かすか、今回の研修に以上の諸点に思いを致した会員は、将来性に期待します。

さて、私にとってはメーンの懇親会を前に、温泉浴をしたのですがこの温泉は滑らかで、皮膚に優しいとか。懇親会に入りますと、程良い疲れと温泉浴の効果か意外と早く酔いが回ります。正に陶然となり、周囲は和気霽霽の雰囲気です。自然体でその中に溶け込むことができました。歓談のうちに夕食を終え、部屋に戻っての二次会です。

事前に主催者側からの「隠し財産」の要請で、いろいろなものが提供され先刻の懇親会で披露されましたが、その内容の豊富さに酔いも倍増の状態です。圧巻であったのが、川端会長で「忍路盆踊り唄」に始まり、小林多喜二を想わせる「女工節」と青江美奈の「夕日の街函館」の歌に、大先輩が歩んだ人生を垣間見る思いをし、その人柄に拍手を惜しみません。私たちの組織の象徴的存在でありますから、ますますご壮健でありますよう心から念じています。

私はムードは好きですが酒には弱いので、二次会を中座してまた温泉浴をし自分たちの部屋に戻ると、既に白老町竹浦から来られた森永浩さんがおり四方山話をして眠りに就きました。それにしても、酔っていますので当然軒をかき同室の皆さんに少なからずご迷惑を掛けたことでしょう。

2日目は、5:00頃目覚め洗顔を兼ねての温泉浴です。昨日から通算3回目です。6:30から伊藤火秀平さんのリードによる探鳥会ですから、風邪をひかないように、サウナに入ってじっくり体を温めました。

小一時間も入って上がってきましたら、もう野外に仲間が2~3人見えましたが、予定どおり6:30ホテルを発って観察場所の休暇村園地に。園地ではハシブトカラスやカラ類にアカゲラの声が聞こえましたが、何と休暇村の餌台にイカルの集団、目白押しの状態です。キジバトの夫婦が仲良く朝食中です。空にはミヤマカケスの集団飛行を見ることが出来ました。そんなこんなで私たちも空腹を覚え、帰途につきました。帰りは千歳川沿いに下り、千歳市の市鳥でありますヤマセミや支笏湖に波がありましたので、避難している水鳥を狙いましたが、全然見えずその代わりカワウが一羽、大きな魚を捕らえそれを飲み込む姿が観察出来ました。

また、此の橋の袂にイタドリと思われるものが生育しています。

ホテルに戻り早々に朝食を済ませ、また温泉浴を楽しんだ会員もおりましたが、私にはその勢いがなく、矢張り年齢によるせいと理解しました。

そんな振幅の大きい宿泊研修会でしたが、実に楽しい研修でした。組織としては今回限りでなく、ぜひ継続性を持ったものにしていただければ、元気である以上は参加していきたいと思っています。

(2001. 10. 02 記)



恋い焦がれて、出逢いは一瞬

根室市 岡村敏夫

昨春、札幌から東京へ、そして今春、東京から根室に引っ越してきて半年がたちました。車で20分足らずのところにはバードウォッチャーのメッカ、春国岱があり、少し足をのばせば霧多布湿原、野付半島等があつて、鳥・動物・植物など自然大好き人間にとって退屈している暇はありません。

道東は野鳥の宝庫で、特に春国岱ではわが国で見られる野鳥の半数近いおよそ250種が観察できるといわれています。また、根室近辺にはエトピリカ、シマフクロウなど道東でしか見ることのできない希少種も生息しています。

シマフクロウは体長が70cm、翼を広げると2m近くにもなる世界最大のフクロウで、わが国の生息数は100羽前後といわれていて、国の天然記念物にも指定されています。今年の夏、根室のシマフクロウがNHKの自然番組でも紹介されていましたが、つい最近、ようやく念願がかなって、そのシマフクロウに出逢うことができました。

そこは国道から少し横道に入った流れが緩やかな小川の畔です。シマフクロウの生息地なんていうと鬱蒼とした原生林を想像しますが、牧草畑になっている台地の谷間を流れる小川の河畔林で、少々オーバーに言えば真横から見たら先が透けて見えるくらいの幅しかない森です。日没をめがけてお目当ての場所に日参するのですが、ウー、ボーボーとつがいで鳴き合う重低音のよく透る鳴き声、ピー〜という幼鳥の鳴き声が、時々薄暗い木立の中から聞

こえてくるのですが、姿はなかなか見せてくれません。

初めて鳴き声を聞いた日からかなりたった8月のある日の夕暮れ時、すぐ目の前にある木立の枯れ枝のてっぺんに、4羽も同時に姿を現したのです(つがいと幼鳥が2羽)。心の中で歓声をあげながら双眼鏡を握りしめる手にも思わず力が入り、ピント合わせももどかしく胸はドキドキしていました。でも、出逢いは一瞬、大きな翼を羽ばたかせながら音もなく頭の上を通過し、森の闇に飛び去りました。

成鳥と幼鳥の姿の違い、鳴き声の違いなどは、現場で時々お会いする北海道鳥獣保護員Yさんやその仲間の皆さんに教えてもらったものです。Yさんは本州から根室に移り住んで十数年、シマフクロウの調査や保護活動に取り組んでいる方です。

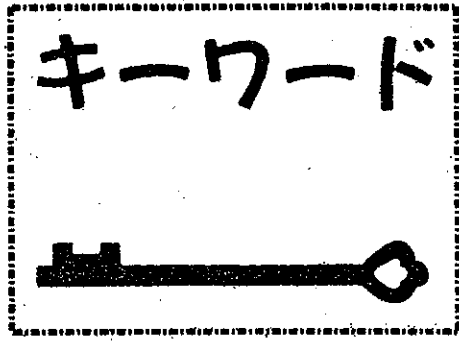
一見、自然が満ち溢れているように見える道東においても人間の手が加わっている自然が多く、Yさんが取り組んでいるような保護活動なしではシマフクロウの絶滅が危惧されるという現実があります。森や川を本来の姿に戻すことももちろん大切なことですが、自然を慈しみ愛おしく思う心をもった人の輪を、一人でも多くの人に広げていくことが、それと同じくらい大切なことだと思います。ボラ・レンの活動もその一つではないでしょうか。

江別第二小学校3年生を引率して

江別第二小学校の寒藤先生より、事務局の佐藤氏の元に、10月6日に小学3年生を120名引率してほしいとの連絡があり、研修部で対応してほしいとの事でしたので、急遽レンジャー諸氏に連絡をとり、11名のレンジャーの協力を得る事ができました。当日は朝8時に集合し下見、天気予報に若干のずれがあり、生徒集合までなかなか雨が止まず、レンジャー諸氏をヤキモキさせましたが、観察会が始まる頃には雨も上がりだし、まずまずの観察会となりました。まず何から興味をひきつけようかと考え、カツラの木下に連れて行き「なんかいい臭いしない?」「なんか甘い臭いがする」カツラの葉をもまして臭いをかがす、そしてツタウルシの説明、「赤く色ずいたこの葉っぱはかぶれるから触っては行けませんよ。」がしかし、一寸目を放した隙にハート型のツタウルシの葉を拾っている始末、いかに子供に伝える事の難しさを感じました。次にキンミズヒキの種を採り服に付けてやる。ここでマジックテープの話し、子供達の感心はきのこへと向けられていた、「なぜ子供は食べられもしないきのこに興味に向くのでしょうか。」矢継ぎ早に来る子供達の唐突もない質問、「熊はいるの?」「へびはいるの?」常に変わる興味、これをこっちのペースに引き込むのがなかなかの試練、ときには紅葉を見て、「ワー綺麗だね」と一緒に感動。自分だけにレンジャーの気を引き付けようとする子供もいれば、あくまでもマイペースな子供もいる、侮れない子供の気持ちをこっちも理解し平等に対応しようとするがなかなか難しい。こっちが子供にいろいろ試されているような気持ちになる、いろいろな手を使い興味を集中させようとするが、10人の気持ちはバラバラでなかなか一つにはならない。終いにわ、コースの長さが3.7キロもあり、子供特有のわがままが飛び出す始末、バスの時間もあり子供を急かすがなかなかうまく行かない、何とか宥めすかし大沢口に、各レンジャーはそれぞれに工夫を凝らし子供達に対応していた、力強い限りでした。道々学校長と話してみましたが、子供達がこんなに長い距離を歩くのは初めてという事でした。また、今後距離を短くし、ゲームを取り入れて最後にまとめの時間を設けるのが良いのではと話していました。

子供達は私達の話しに興味を持ち熱心に聞いてくれました。これに答えるように飽きのこない距離で、わかりやすいプログラムを今後考えていかなければならないと感じました。学校側と良く話し合い子供達のレベルに合わせたプログラム作りを、今後考えていく必要を感じ今回の引率の感想とします。今回ご協力いただいたレンジャーの皆さんに感謝します。ありがとうございました。

研修部長 小林 英世



生態系保全

北海道は広大で豊かな自然に恵まれています。森林面積日本一、河川と湖沼面積も日本一です。しかし、自然環境の変化が徐々に進んでいます。私たちは豊かな自然を次の世代に引き継ぐ責任があり、生態系保全の具体的な行動をしなければなりません。

札幌市では、先般の市議会で水環境計画に数値目標を盛り込む考えを示しました。

水環境計画は、河川や地下水、森林などの地盤まで、水の循環に必要なすべての環境を保全、回復させることを目標にしています。また「トンボを見られる川」など、魚や昆虫の生息状況を指標にすることも明らかにしました。

北海道新聞の6月6日（朝刊）によると道有林の一部に野生生物保護に配慮する区域「生態系保全の森」設定の計画を明らかにしています。森林生態系が崩れると、地域さらには地球上に大きな変化があらわれます。それを防ぐのは、言うまでもなく人間の役割なのです。

道有林に「生態系保全の森」

道有林は現在、景観保護など公益的機能維持を図る「公益林」と、木材

道は五日までに、来年度から十年間の道有林基本計画の策定の中で、道有林の一部に野生生物保護に配慮する区域「生態系保全の森」（仮称）を新たに設定する検討を始めた。

この区域は、希少野生生物の環境保護を念頭

伐採行わず 希少種保護

に、原則的に伐採しない 候補地を選ぶ。希少種の 生産が主の「生産林」、方向。動物の捕獲禁止 シマフクロウやクマゲラ 木材生産と公益的機能維持

クマゲラなど 生息地 **今秋までに候補選定**

などの措置とは別に、森などの生息地が候補となる 持の両方を目的とする づくりの面から環境保全の見通し。道は十一月に「併用林」の三分。道に努める。

道は今年秋までに、同め、道森林審議会に諮問 での役割をより重視して 区域の設定基準を決め、する。 策定する。

(6月6日 北海道新聞朝刊)

横目で見る北イタリア美術館巡り (その三)

札幌市 佐藤 健一

ヴェネツィアを味わいたければ、夜一人自分の足音を聞きながら、石畳の小路を歩けといわれます。両手を広げると両脇の家の壁に触れそうな暗く狭い小路、赤や緑のヴェネツィアングラスやカーニバルの仮面を売る小さな店が並ぶ、ほの明るい小路を想像して下さい、本物の異国情緒の雰囲気を間違いなく味わえます。

大分以前映画の題名は忘れましたが、夜霧に包まれたヴェネツィアの街、貴族のうら若いご婦人が仮面に黒いマント姿で、屋敷をこつそり抜け出し、何かを求めて、さ迷い歩く。。。妖しげなシーンがあったのを思い出しました。

仮面は、それを着けると自分が自分でなくなり別人になったような気持ちになる、というのが通説です。ですから仮面をつけた途端、他人になる、これから自分がすることは他人がすること、他人がすることは自分に責任がない、だから何でも出来る、いいかえれば、俳優と観客を一人で演じ台本はお好み次第、サー自由奔放にいこう、など監督さん不在の舞台演出となります。

それにしてもヴェネツィアの仮面は退廃の香りが漂います。

中世、ヴェネツィアの貴族達は自分好みのデザインの仮面をお金に糸目をつけず職人に作らせ、その仮面をつけたとき何を楽しんだかは想像に難くはないでしょう。

なにせヴェネツィアは海洋貿易国、商売に出掛けた大勢の男衆は長旅、銃後を守る美しい奥方さまには一日が48時間、それに旦那さまは、おおらかだったようですから。

所で、ヴェネツィア人の国体護持方法や商売感覚は、イタリア在住の作家塩野七生さんに描かせると、日和見主義で合理的をモットー、人間の良識を信じないこと、モラルは必要なとき以外身につけないこと、など1797年ナポレオンに崩壊されるまでの1000年、この共和国を支えてきた精神の屋台骨のようです。

どうも小路を歩きすぎて、みちに迷ったらしい、この辺でヴェネツィアに別れを告げ、パドヴァのスクロヴェーニ礼拝堂に邪推の心を懺悔しに行くことにしよう。

とはいっても、予約時間は厳守礼拝堂に入る前に約15分間ガラス張りの檻みたい部屋に入れられ、オレの姿まだ見えるかい、などの冗談いう内に充分消毒されました。

14世紀初頭ジョットによって描かれた「キリストの生涯」の一連のフレスコ画が最近修復されたばかりで、以来ガラス張りの檻を通らねば礼拝堂に入ることは出来ません。礼拝堂の壁四面に描かれたフレスコ画は、窓から指し込む淡い光に浮き出され荘重にして見事なものでした。

見終って外に出ると、古い工事現場跡みみたいな草むらに、大きな石があちこちに、

転がっているではありませんか、よく見るとこれが大理石の柱のカケラ、その後ろには崩れかかった壁、これは何ですかとガイドさんに聞きましたら、ローマ時代の闘技場跡です。2000年前が草むらに。。。イタリア版、^{つちのども}兵共がゆめの跡でした。

風に乗って当時の観客のどよめきや歓声が聞こえるような気がしたのは、わたしだけではなかったようです。

またバスに乗り、次は6世紀ピザンチン美術のラベンナえ、ラベンナといえばサン・ヴィターレ聖堂のモザイク画であります。1450年前の長い時間が凝縮された、職人達の業が薄くらい光の中で燦然と輝いておりました。

またバスに乗り、次は何処に行ったっけ、眼から脳ミソへの光ファイバーが、モザイクタイルの色彩過敏症による断線で全く記憶にございません。修復にはフィレンツェに着く頃まで掛りそうです。

やれやれ、ここは花の都フィレンツェの入り口、街に入る車から観光税を徴収するため、バスは1時間近くノロノロ運転、これを機会に車上から自然観察、とはいっても道路はイタリアの大衆車フィアットを中心にルノー、ワーゲンの小型車ばかり満杯、眼を転ずると、日本と同様、郊外は都市開発中、むき出しの土の遙か彼方にポプラが一本、二本と見えるイタリア独特の風景、それらに交じり茶色のクレーンが見えます。

何とか市内に入ると、道路脇は小型車の駐車場、しかも前後の車の間隔が10センチ程度、先頭の車が走り出したら後の車が繋がって走り出しそうなトロッコ駐車であります。どなたか車の列の真中からトランプのように、前後の車のバンパーに触れず車を抜き出す方法をご存知ですか。フィレンツェには駐車場が無いそうです。

アルノ川のほとりでバスを降り徒歩で、ポッティチェリの「ヴィーナスの誕生」「プリマヴィエーラ(春)」に面会するためウフィッツィ美術館に向いました。途中アルノ川を覗くと30センチくらいの魚が4、5匹群れで泳いでおりました。

イタリア在住25年の日本人女性ガイドとコンビのイタリア人ガイドの計らいで、長蛇の列の加わらず入館、展示室の入り口左に、人だかりに囲まれ「ヴィーナスの誕生」はポツリした表情でこちらを向いてくれました、いや向いてくれた感じ、正確には向いていた、です。

面会の感想を申上げると、貝の舟に乗り磯に吹き寄せられた、このルネサンスの美女は色白で小太り、さしずめ西洋の乙姫様でした。

もしもダ・ビンチの「モナリザ」をヌードにして全身を描けといわれたら、このヴィーナスの体形を参考にするとよろしいかと思ひます。

次なる感想は、この「ヴィーナス」^{あまた}数多のお堅い宗教画の中に陳列されていて少しも違和感が無い、皆さん当り前の顔をして鑑賞しています。

先日テレビ番組で 2.3 年前制作された映画「タイタニック」を放映しておりましたが、この映画の主演女優がこの「ヴィーナス」に似ていると感じたのは、監督の意図か偶然なのかは分かりません。この映画で主演男優のデカプリオは海の底に沈み、主演女優（お名前不明）はタイタニックという大きな貝殻から生き残り（誕生）、こんなことを暗示していると思ったからです。

どうもお前は描かれている絵よりも、描かれている絵の中の人物に興味があるのか、と皆さんにご指摘を受けそうです。

実はその通りでして、絵は見ないより見たほうがよく、見て良ければ、これ結構、鑑賞より見物派なので、こうしてお茶を濁している訳であります。

「プリマヴィエーラ（春）」ダ・ビンチの「受胎告知」についても、同様のご託を並べるのがせいぜいなので、このあたりで止めておきましょう。

次はアカデミア美術館の主役、ミケランジェロの作ダビデ像です。ダビデ像はドームの真中に堂々と立っていました。後は申すことなし.....です。

このダビデという男性は旧約聖書のサムエル記（上）によると子供の頃は、豎琴を弾き姿の美しい羊飼いの少年とあります。イスラエルとペリシテ軍の戦いにダビデの有名なエピソードがあります。無防備の少年ダビデに対し甲冑に身を固めたペリシテの巨人ゴリアテは、石投げ紐の小石に眉間を打たれ、うつ伏せに倒れたのです。

この一騎討ちの前、ゴリアテの言葉「わたしは犬か、杖を持って向ってくるのか」子供と思って油断したのですね、ソロモンの知恵で知られる、ソロモンの父はダビデです。ミケランジェロは、このダビデ像を 26 歳ころ約 3 年の年月をかけて制作したそうです。制作にあたって、石膏模型を作らず大理石の巨大な原石に直接彫り始めたといわれております。原石は北イタリアのカッラーラ産、重さは 50 トン以上（わたしの勝手な推測）あったのではないだろうか。

昨年世界の彫刻家 50 人に選ばれました、美唄市出身の彫刻家 安田 航^航さんはカッラーラの近くにアトリエを置き制作に励んでいます。安田さんは昨年、花の都フィレンツェのウフィッツィ美術館前ほか市内 7 ヶ所で分散作品展を開催、フィレンツェ子驚かせました。（作品の一部はその場所に永久展示）北海道での安田さんの作品は、札幌芸術の森、美唄のアルテ・ピアッア（芸術広場とでも訳すのかな）や札幌キタラホールの前に置かれております。ミケランジェロはもっぱらカッラーラの大大理石を

使って制作したので、安田さんの作品に手を触れるたびにダビデ像を思い出し、親しみを感じますので、この項を付け加えました。

この旅もそろそろ終わりに近づき最後は世界のファッション発信都市ミラノです。オペラで有名なミラノスカラ座の近くでバスを降り、これからガレリアを通りぬけドゥオモ（ミラノ大聖堂）見物の予定ですが、ここで遂にイタリア点と線旅行で見つけることの出来なかった「カラス」を見つけました。しかし残念ながら本物のカラスではなく、スカラ座のプリマドンナとして君臨、カラスの前にカラスなし、カラスの後にカラスなしといわれた、往年の名ソプラノ歌手マリア・カラスの名前でした。

彼女は24年前、スカラ座の舞台上で万雷の拍手と、絶賛を受けた栄光の花束を胸に抱え、54歳で本物の天国に行ってしまいました。元々はメゾなのにハイソプラノもこなす発声に無理をしたため、歌手としての寿命が短かったといわれています。

ピットリオ・エマヌエレ二世アーケード、通称ガレリアは札幌狸小路を縦横2倍くらいにした高級商店街、長さはあまりありませんが、ガラス張りのアーケードがとても美麗、そこを通り抜けるとドゥオモ広場、隅っこにピッツァ屋があったので、チョット立寄り、これがまた燦燦と降り注ぐイタリアの太陽に育まれたオレンジ、この絞りたてと、本場物のピッツァはイタリアを感じさせてくれました。

静粛にとの注意を受けドゥオモの中に入れてもらおうと、蠟燭の明かりの中で信者の人達が敬虔な祈りを捧げており、祭壇正面のスタンドグラスが印象に残りました。

ブレラ美術館の中を横目で通りぬけ、ダ・ビンチの「最後の晚餐」をパスして、スフォルツェスコ城博物館へ、ここにはミケランジェロ・ブオーナローティ最後の作品ロンダニーニのピエタ（イエスの死を悲しむ母マリア）がありました。作品は未完成といわれておりますが、死の直前までイエスの足許にしがみついて、制作に打ち込む89歳のミケランジェロの姿を想像すると、凄絶さを感じず彫刻でした。

これをもちまして美術館巡りは終わり、三回にわたる駄文「横目で見る北イタリア美術館巡り」も終らせていただきます。まさか、このような文章を書く破目になるとは、思ってもいませんでしたので旅行中、午後からは大抵ワインづけ、ほんわかイタリアでありました。

しかも1年前の記憶など、何処を探しても記憶にございません。旅行記録フィルムを見たら何とかなるだろう、と思ったのが大間違い、やはり日記が一番だということが分かりました。いずれ機会がありましたら、今度は「正面から見る北イタリア美術館巡り」をしたいと思っております。写真機を持たずに

クマゲラー斉調査

今年の春、平成13年3月11日に野幌森林公園でクマゲラー斉調査がありました。当会の小淵修子会員、久志本会員、菊池会員の3名が参加されました。その調査協力へのお礼と調査結果が届いていますのでお知らせします。本来でありますと、広報誌「エゾマツ」57号に掲載する予定でしたが、紙面の都合で今号になってしまいましたことをお詫びいたします。



クマゲラー

〔特徴〕 雌雄ほぼ同色。成鳥雄は額から頭部は赤色で、他の部分は黒く、上面には光沢がある。成鳥雌は後頭だけが赤く、他の部分は雄と変わらない。

〔行動〕 木の幹や朽ちた記、地上などで主にアリを好んで採餌し、他の昆虫類の幼虫なども食べる。数回羽ばたいては、翼を体側につけて閉じ、それを繰り返して、大き波状飛行で直線的に飛ぶ。

〔環境〕 平地から山地の林など。北海道と東北の一部に分布。原生林や二次林などの深い森林に生息する。 —日本の野鳥（山と溪谷社）より—

クマゲラ1羽～2羽の確認、ご協力ありがとうございました

3月11日に開催されましたクマゲラー斉調査におきまして、クマゲラの1～2羽の確認が報告されました。年度末の又日曜日のお忙しい中多数ご参加頂きました皆様にご心よりお礼致します。とりあえず絶滅をまぬがれ、ホッと致しております。ここ数年、低め安定化傾向とは言え、健気にも何とか生き続けているクマゲラのことを思うと、胸が痛くなる思いです。早く数多くのクマゲラたちが、自由に飛びかう森になってほしいものだと願ってやみません。アオサギの二の舞だけにはしたくないものです。

野幌を取り巻く周辺環境は年々悪化の一途をたどっておりますし、利用者のマナーもまたまだ問題が多いのが現状です。今年は、大沢口に「自然ふれあい交流館」の開館の年にもあたり、又昨年来、公園整備にあたって石狩森林管理署との話し合いも進んでいる年でもあります。より多くの人々の叡智を集め、より良い森作りに向け、たくさんの人々の力を合わせなければならぬと思います。

北の遺産「野幌の森」を子孫に残すために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。今回の調査へのご参加、本当にありがとうございました。

野幌森林公園を守る会
会長 松山 潤

参加団体と参加者数（順不同）

日本野鳥の会札幌支部、江別支部、北海道野鳥愛護会、パンダクラブ北海道ボランティアレンジャー協議会、猟友会札幌支部、酪農大学野生動物生態研究会、北大野鳥研究会、北海道自然観察指導員連絡協議会、自然ウォッチングセンター、札幌野の花の会、スコップクラブ、応用地質（株）、（株）セ・プラン、札幌東豊高校、酪農大学大学院獣医学研究科、道立地質研究所、北大理学部、北海道野生生物保護公社、石狩森林管理署、野幌森林公園事務所、北海道日高支庁、北海道開拓記念館、野幌森林公園を守る会、他個人参加の皆様、合計81名。

調査結果

- ①サギの森のメッシュ100で、直前にしたと思われる新鮮なクマゲラの糞が採集された。
- ②カツラコースのメッシュ11で、大きなドラミングと飛び立つ後ろ姿を見た。クマゲラのように見えた。10:00頃。
- ③メッシュ16で、断定はできないが似たような鳴き声が聞こえた。2~3回キョーンという声が、10:40~50頃。
- ④メッシュ38で、10:43頃、北方向より鳴き声らくきものを聞く。

結果の考察

1. サギの森で採集されたクマゲラの糞は、調査の結果、間違いなくクマゲラのもものと確認された。1羽確定。
2. カツラコースのものは、はっきり止まっている姿を確認していないのが、可能性が高い。もう1羽の可能性もある。
3. メッシュ16、38のものは、はっきりクマゲラの鳴き声と確認されておらず、又カツラコースとの同じ個体の可能性もある。
4. 以上の考察から、1羽~最大2羽の結論としたい。

野幌森林公園



山への想い

大平山 (オオビラヤマ)

— アイヌ語オビラシュマ (川口の崖岩の意) —

札幌市西区 川端 功治

島牧村の大平山は、道南最高峰狩場山の東側に堂々たる風格で聳えている山でこの、二つの名峰に囲まれて暮らす村民は、大いに自慢して良いのですが、特に大平山の名花オオヒラウスユキソウは、人類にとって掛けがえの無い宝として守り抜いて欲しいと思います。

本州東北の白神山地は世界の財産として登録され、大切に保存されることになりましたが、島牧山地も同じブナ林で白神に勝るとも劣らない価値ある山地と思われ、ましてオオヒラウスユキソウは勿論のこと美しい高山植物群落は、より一層価値を高めているものと思われまます。

ところがこのブナ山に危機が訪れています。それは登山ブームの為に山が荒れ始めたのです。もともとスイスの国アルプス山麓の観光コースで少女がアルプスの名花エーデルワイスの花束をかざす愛らしさが人気を呼び、エーデルワイスを讃える歌曲に乗ったブームは世界中に広がり、スイス観光のコースから遂に、この名花が絶滅する騒ぎになり、慌てた当局が栽培してコース沿いに植え付けるまでになったウスユキソウ。この仲間が日本ではハヤチネウスユキソウ（岩手県早池峰山1914／産）。これを母種とする亜種がオオヒラウスユキソウと云うことになっており、既に登山禁止になっているキリギシ山のも同じ亜種とされ、夕張岳や道東産のはエゾウスユキソウでレブンウスユキソウを別扱いにする人もいるが室蘭岳や道南に産するウスユキソウは花が単純で背丈も高く一般の山草並の扱いであります。

面白いことに素人の目で、以上のウスユキソウを何の先入感もなく眺めた時にエゾウスユキソウで一括するのに不満を覚えます。大平山産のはドッシリとして

風格があり別の種類にすべきだと感じます。これに目をつけたのが同僚である渡辺定元氏（元定山溪営林署長—東大富良野演習林長）で分析の結果を纏め学会を説得して新しい学名を決定させた。それが標準和名オオヒラウスユキソウです。学名 *Leontopodium hayachinense* var.

miyabe anum Sadamoto Watanabe

以上の経緯から却って人気が高まり、収集家のターゲットとなつたのは皮肉であり、ウスユキソウの写真を撮るため、まわりの高山植物が踏み荒らされると云う、これこそ踏んだり蹴ったりの結果となりました。

オオヒラウスユキソウのどこが特徴なのか梅沢俊先生の指摘するポイントに注目してみました。

- 1。花がつく株の葉は20—30枚あり、披針形で幅が広い。
- 2。根際の葉は枯れない。
- 3。茎につく葉の基部は鞘状となって茎を抱く。
- 4。苞葉の綿毛は厚くふっくらしている。
- 5。雌花雄花の割合の差が大きく、別株になる傾向が強い。
- 6。果実に稜がない。

尚渡辺定元氏は花粉学の権威五十嵐先生（五十嵐レンジャーの叔母）はブナが渡道して黒松内まで進出した年代を花粉の分布で証明したが、道南一帯を独占したパワーとテクニックの解明は何から始めようかと考えました。

普通のブナは平野から中腹位までの分布に止まるものを、大平山では海拔高800帯地帯の、ダケカンバ林を飛び越え900帯に進入しつつあるパワーに着眼、その行動を定点観測を始めたのでブナや各樹種の幼苗を登山者によって踏み荒されるのを極度に懸念して居る事を登山客が理解してくれるかどうかの不安。

登山ブームで山が荒らされ、村民が誇りにしている宝物エーデルワイスが絶滅するのではの不安。島牧村当局も単なる登山客相手の林道造りでは失うことばかりで、村おこし、町興しに何の役にも立たないことへの不満。いずれの場合にも残された選択肢はキリギシ山のように、登山禁止しか残されて居ないと思えます。

これでは一名山として紹介するのに値しないことになるので、心ある人が、心して登れば、全てが解決するものと信じ、しかもこれが最後のお願いの積もりで登った経過を記します。

*旅行会社のまど企画大平山登山ツアー記

1989・8・14、15・男4、女5名 リーダー白石サブ佐藤の両社員。
ツアー旅行記担当の羽根田二郎氏文を要約して掲記します。

「初日泊川林道6号遡上車止めの為、その付近でキャンプ。

翌朝5時過ぎスタート。先頭に行く川端氏は営林局OBで若き頃この林道の設計調査(予備踏査のコンパス測量のことで、トランシット測量はプロが実行する)をした。その昔カクレキリシタンがこっそりと砂金掘りをしていたと伝えられているが、松前藩の金鉱探しの隠密人であったらしい等の話を聞きながら左岸に温泉の湧出を見る。渡る小橋から大平山の頂上が見え間もなく登山口。時刻は6時過ぎ。地図を見ると等高線がビッシリ詰まっている。

計算すると30度の急斜面。深い茂みの苦しいヤブ漕ぎ1時間。ブナとミズナラの林で初めての休憩。

8時樹林帯を抜け草原状の急斜面に出て遠く狩場山を望む。810m峰を越えると一面のお花畑。川端氏から貰った高山植物一覧表を見ても判らないものが多い。1109m峰の東南面に一面に咲いたオオヒラウスユキソウの清楚な美しさに感激。夕張岳やキリギシ山で見たウスユキソウとどこが違うのか判らないが見事な美しさに酔い、苦勞して登った甲斐があった。

1109m峰からハイマツや灌木クマザサをコギ分けついに頂上10時15分。ハイマツに囲まれた平凡な山頂に一等三角点があった。

下山は急斜面の連続であった。リーダーが要所、要所でザイルをフィックスしてガードしてくれたが、滑り易く歩き難いので僅か3キロの下り道なのに随分と長く感じました。以上レポライターの記事を半分要約して掲記。私を憂めた文章は、照れくさいので削除。宮内温泉で汗を流して一路帰札。

*アドバイス

1. 林道事情を把握してから登山計画を進めること。

島牧村役場、黒松内森林事務署、のまど旅行会社。(照会先)

2. 路肩の無い踏み跡を辿り、30度の粘土質の急斜面をを這い登るので滑り易いので雨天は中止すべきでしょう。

3. お花畑は広々としているがそれほど種類が多いわけではないので踏み分け路から(歩道ではありません)長めの焦点レンズを使えば高山植物を踏みつけることもありません。

4. 高山植物については予めチェックして要点をメモしたものを持参すれば能率的に観察出来ましょう。

その為に下記にリストを掲げましたが、これは渡辺定元氏と北大元教授五十嵐恒夫(きのこの先生-五十嵐恒夫氏-五十嵐レンジャーの叔父)と共同で精査した労作から必要事項のみを転載したものです。

*後志国大平山石灰岩地帯の高山植物

(渡辺定元著)

大平山(1190m)は渡島半島の西北部に位置し、山頂付近は日高系の石灰岩より成っている。

お花畑の植物

*春季相

タカネスイバ	ミツモリミミナグサ	エゾノハクサンイチゲ
ミヤマオダマキ	ミヤマハンショウズル	ミヤマキンポウゲ
ミヤマハタザオ	タカネゲンバイ	アオノイワレンゲ
チシマフウロ	ミヤマウツボグサ	タカネオミナエシ
ミヤマアズマギク	オダサムタンポポ	センボンヤリ
コメススキ	タカネショウジョウスゲ	マシケスゲ
ショウジョウパカマ	ヒメイズイ	ハクサンチドリ

岸壁・ヤマハナソウ、サクラソウモドキ、チシマアマナ、

*夏季相

カマヤリソウ	エゾイブキトラノオ	ムカゴトラノオ
タカネナデシコ	ヤマブキショウマ	ノウゴウイチゴ
エゾノタイツリオウギ	イワオウギ	グンナイフウロウ
ミネオトギリ	オオハナウド	ハクサンボウフウ
カノコソウ	ミヤマコウゾリナ	シロウマアサズキ
エゾスカシユリ	チシマククルマユリ	アツモリソウ

岸壁・・カラフトマンテマ、チャボカラマツ、シナノキンバイ、チョウノスケソウ、イワキンバイ、ウラジロキンバイ、イブキジャコウソウ、チシマギキョウ、チシマイワゼキショウ、

*秋季相

エゾノホソバトリカブト	ミヤマアキカラマツ	ウメバチソウ
ヒロハクサフジ	ナンテンハギ	ホタルサイコ
チシマリンドウ	エゾリンドウ	エゾコゴメグサ
ナミキソウ	エゾシオガマ	ホソバノオトコヨモギ
アサギリソウ	マルバヒレアザミ	オオヒラウスユキソウ
トウゲブキ	ナガバキタアザミ	コガネギク
エゾススキ	エゾカンゾウ	ミヤマバイケイソウ

*泊川沿い岩壁

チャセンシダ、ツルデント、モミジカラマツ、ミヤマハタザオ、シリベシナズナ、キリンソウ、ダイモンジソウ、クロクモソウ、ヤマハナソウ、イワキンバイ、ミヤマセンキュウ、ミヤマホツツジ、マルバキンレイカ、モイワシャジン、オダサムタンポポ、タカネノガリヤス、ヒメヤシャブシ

付記

参考 日本の野生植物 平凡社 北海道の花 鮫島、辻井、梅沢、
道南の自然を歩く 北大図書刊行会
北海道の高山植物 梅沢 俊 以上

イオシラウスユキソウ



ユヅウスユキソウ



ウメユキソウ



観察会研修会 情報

10月以降の観察会予定

◆ ありがとう観察会 (公園事務所との共催)

11月11日 (日) 10:00~14:30 (昼食持参のこと)

集合場所 野幌森林公園大沢口

(下見 10月10日 10:00~)

◆ 12月の森の観察会 (公園事務所主催・ボラレン協力)

12月6日 (木) 10:00~12:00

集合場所 開拓記念館前

(下見 11月29日 10:00~)

◆ 1月の森の観察会 (公園事務所主催・ボラレン協力)

1月17日 (木) 10:00~12:00 集合場所 開拓記念館前

◆ [小樽支部の活動]

10月20日 (土) オコバチ~穴滝~天神町

◆ 11月10日 (土) 市有林観察会

小樽支部の活動の詳細については、北原 武氏に連絡のこと。

(小樽市天神1丁目22-13 TEL 0134-27-1701)

〔編集後記〕

◆木々が色付き、キノコ類が顔をだしています。秋の恵みが森のあちこちに見られます。雪の季節を迎える前の一時の輝きです。私たちの活動も、秋の恵みの中で進めていきましょう。

◆今年の活動の目玉は会員研修の機会を増すことでした。野幌森林公園を会場に講師を招いたこと、支笏湖やニセコでの宿泊を伴う研修を行いました。これらの結果を整理して、次年度の研修のあり方を検討してみることも大切でしょう。

◆支笏湖研修で講師をお願いした本会の顧問、佐々木幸夫氏に支笏湖研修の様子の一文を寄せていただきました。観察会の場所としては、大変興味の尽きぬ所です。

個人的に支笏湖周辺の情報を得たい方は、当会顧問 佐々木幸夫氏に連絡してみてください。今回の宿泊研修の成果を受け、今回は多くの会員が気軽に参加できるよう研修部が中心になって計画を進めてほしいものです。

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報誌「エゾマツ」58号 2001.10.15発行
発行責任者 川 端 功 治

